

食育の芽



第9号 2017.11発行
発行：すみだ食育goodネット事務局

「お絵かきホットケーキ」を トマトジャムで食べよう!!

すみだ農園 収穫祭 今年も開催

農地がない墨田区で、自分たちの手で農園をつくりたいとの想いから始まった「すみだ農園」。カゴメ(株)からトマト「凜々子」の苗をいただき、2012年から育ててきました。

この日は、墨田児童会館の「農園」で育てたトマトを、みんなで食べる収穫祭が行われました。子どもたちは、メイラード反応(*)を使った「お絵かきホットケーキ」づくりに挑戦。収穫したトマトで作ったジャムをかけて完成です。ホットケーキミックスと甘酒は森永製菓(株)から、トマトジュースはカゴメ(株)からいただきました。こうして、児童館と団体、企業、goodネットの協働で、多世代が集まる交流の場が生まれたのです。



goodネットのメンバーが
つくったトマトジャム



講師は「食育×科学れしび研究所」の鹿島さん



森永製菓(株)の溝井さん
提供されたホットケーキミックスについて説明



甘酒×トマトジュースで美味しかったです

ホットケーキ づくりのようす



焼き色を出やすくするため
ハチミツを入れた生地でご絵を描き、しばらく加熱する



トマトジャムと一緒に食べる



絵を加熱後、普通の生地をのせて焼く。
それをひっくり返すと、絵が!

(*)メイラード反応:糖とアミノ酸を加熱したときに見られる褐色物質を生み出す反応。食品の焼き色や芳ばしい香りのもと

プランターで野菜を作れば、 すみだにも農園ができる!!

すみだ農園が始まるきっかけは「すみだの食育の未来を考えるワークショップ」。みんなで「農園」をつかって野菜を育て・食べることで「地域のコミュニケーションを深めることをめざしたらどうか」という提案がされました。

その後、この提案は実現。トマトの苗をプランターに植えて自宅で育てるだけでなく、墨田児童会館前の花壇を「農園」にして育てることになりました。そして「農園」で育てたトマトをみんなで食べる機会をつくるために、収穫祭が行われてきたのです。



上:児童館前に作られた「農園」



右:カゴメ(株)からいただいた約100株のトマトの苗

1. 自宅で育てる (写真は2015年の活動のようす)



プランターに自分の好きな絵を描く



土を入れ、苗を植える



自宅に持ち帰り育てる

2. 児童館の「農園」で育てる (写真は2015年の活動のようす)



児童館の前の「農園」に苗を植える



みんなで水やり



苗のお世話は、みんなで行う

みんなの“夢”がカタチになった

2011年に開催された「すみだの食育の未来を考えるワークショップ」には、区民、大学生、地域団体、学校関係者、行政職員などが参加。すみだの魅力や課題を出し合いました。そこで生まれた夢のひとつが「すみだ農園」です。

ワークショップ終了後「提案だけで終わるのはもったいない。ぜひ実現させよう!」という話になり、児童館やカゴメ(株)などの協力も得ながら活動がスタート。まさに、みんなの“夢”がカタチになったのです。

この取組は、平成27年6月内閣府より「食育推進ボランティア表彰」を受けました。



ワークショップではたくさんの夢が提案された

「すみだ農園」の打ち合わせのようす



原点に帰り、みんなで“夢”を語ろう！

食育活動を通して実現したい“夢”を語る会を実施



すみだの食育は「すみだ農園」のように、お互いの夢を語り合う場からアイデアが生まれ、それが実際の活動として実を結んできました。

この原点に帰るため、多様な人々が集まり、食育活動を通して実現したい“夢”を語る会を実施しました。グループ毎に自由に語り、ほかのメンバーの“夢”を聞いたことは、次の活動の“種”となるはずです。



上:普段の仕事や肩書きを脱いで、自由に夢や想いを語り合った

左:印象に残った夢や想いを葉っぱ形の紙に記入し「食育の木」に貼りつけた

幸せな気分になり、自信につながった！

初参加の手塚さんに感想を聞きました



話し合いに参加する手塚さん(写真中央)

私は、中高一貫校で家庭科の教員をしています。個人的に食育の研究をしていて、食育活動が盛んな墨田区の原因力を知るために、この会に参加しました。

予想を超えるほどみなさんが熱心で、すみだのことを大事にされていることに驚きました。

また、自分の“夢”を語り、みんなの夢を聞いたことで、マニフェストではありませんが、しっかりしたカタチにすることができました。しかも、応援までしていただいて。「家族以外にも、自分を応援してくれる人がいる」と思うと、幸せな気持ちになりますね。それに、次への自信につながった気がします。

すみだの食育 「これまで」と「これから」

夢を語る会では、話し合いを始める前に講演を聞きました。すみだのこれまでの歩みや活動の特徴を確認し、今後の食育活動の基礎になる国の「第3次食育推進基本計画」や、新たな「墨田区食育推進計画」について話を聞きました。



講演を聞いた後、グループのメンバーと感じたこと・考えたことを共有した



これからも「キャッチボール」を大切に!

すみだの食育が協働を実現して、区民中心の組織であるgoodネットが自立的に活動してこられたのは「あなたの夢が私の夢」というスタンスで進めてきたからだと思います。この“夢”をボールに例えると、相手のボールを受け取ることで、つまり「キャッチボール」を大切にしてきたわけです。



早稲田大学社会連携研究所
所長 友成 真一氏

しかし、世の中で主流なのは「私の夢があなたの夢」という感じで、自分の“夢”を相手に投げつける「ピッチボール」です。これは、どちらがいいボールを投げられるかの争いにつながります。一方「キャッチボール」は、相手とのつながりを生みます。今後とも、goodネットには「キャッチボール」を大切にしてほしいと思います。

「食育」で!安心して暮らせるまちづくりをめざす!

私が食育を通して実現したかったのは「誰もが安心して暮らせるまちづくり」でした。そのためには、横断的なしくみづくりと、多様性を認め合い協働で取り組む環境づくりが必要だと感じていました。



元墨田区保健計画課
保健計画担当 秋田 昌子氏

食育基本法が誕生した時、縦割りのしくみに横串を通していく法律だと思い、自ら志願して食育担当となりました。そして「みんなの想いや夢をカタチに!」と、区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学等の多様な方々と一緒に、協働の食育活動にチャレンジする機会を得ました。ワークショップを重ね策定した「墨田区食育推進計画」(単独計画)、区をあげて取り組んだ「食育推進全国大会」など、すみだ食育推進リーダーや支援して下さった方々、そして、長澤先生、友成先生の支えがあったからこそ、実現したと思います。

食育がめざすもの

国の「第3次食育推進基本計画」は、各自治体が「食育推進計画」を作る際に参考とする計画です。その基本計画では「食をめぐる状況の変化」に着目して5つの重点課題が示されました。



十文字学園女子大学
人間生活学部教授 長澤 伸江氏

その第1は「若い世代を中心とした食育の推進」。食育への関心が低い若い世代の食育の実践に関する改善、充実です。第2は「多様な暮らしに対応した食育の推進」。一人暮らしや貧困の子どもに対する支援です。第3は「健康寿命の延伸につながる食育の推進」。メタボ(肥満)やロコモ(低栄養)の予防です。第4は「食の循環や環境を意識した食育の推進」。食品ロスの削減です。第5は「食文化の継承に向けた食育の推進」。伝統的な食文化への理解や伝承です。これらの課題解決に向けた食育活動にみんなで邁進しましょう。

新たな墨田区食育推進計画の特色と理念

新たな墨田区食育推進計画では、国の第3次食育推進基本計画と墨田区の基本計画との関連を明確にしました。



墨田区福祉保健部
保健衛生担当参事 岩瀬 均氏

計画の特色は、これまで構築してきた食育推進のネットワークに「平時の食育」と「災害時の食支援」の2つの視点を持ち、創造的に進めていくことです。また、保健や学校教育だけでなく、環境・防災・高齢者福祉など多角的な視野で取り組みます。基本理念は「夢をカタチに! 手間かけて みんなでつくる すみだの食育」で、前計画では「みんながつながる」としていた部分を「みんなでつくる」に変更しました。これは、みんながつながる「協働」から、みんなでつくる「協創」という新たな段階に進む決意を示しています。